Heimat ハイマート

ぐんま日独協会 会報 68 号

2026 年 9 月 30 日
発行者 中澤 敬
発行所 ぐんま日独協会
〒371-0836
群馬県前橋市江田町123 番地 5
電話：090-3217-4317（中島）
E-mail：info@jdg-gunma.jp
ホームページ：jdg-gunma.jp/



少林山達磨寺「洗心亭」（2026 年 5 月 16 日）

目 次

1．会長の言葉 1
2．令和8年度 上半期の行事報告
（1）総会 2
（2）講演会
（3）少林山達磨寺「洗心亭」散策会 と お蕎麦屋さんでの交流会 3
（4）ドイツサロン（2026 年 6 月 28 日）
（5）音楽サロン（2026 年 8 月1日） 4
3．新入会員紹介（1）
新入会員紹介（2） 5
4．日本百名山独訳（連載） 6
5．お知らせあれこれ 9
6．編集後記 10

1.『ハイマート』発刊に寄せて

ぐんま日独協会会長　中澤　敬



この度、ぐんま日独協会機関紙『ハイマート』をお届けできますことを、大変うれしく思います。また、本誌の編集・制作に携わってくださった方々のご尽力に厚く御礼申し上げます。

私が会長を拝命してから一年六か月が経過いたしました。この間、会員の皆様、役員、関係者の皆様の温かいご協力に支えられ、協会の活動は順調に推移しております。各種講演会や文化交流事業、親睦活動なども充実し、会員相互の交流も一層深まってまいりました。これもひとえに皆様のご支援、ご協力の賜物であり、改めて深く感謝申し上げます。

『ハイマート』とは、ドイツ語で「ふるさと」「心のよりどころ」を意味する言葉です。この機関紙が、群馬とドイツを結ぶ交流の記録であるとともに、会員の皆様をつなぐ「心のふるさと」として、末永く親しまれることを願っております。

今後は、日々の活動をさらに充実させることに加え、2027 年秋に開催を予定しております「ドイツフェスティバル」の成功に向けた準備が、協会にとって最も重要な課題となります。実はこのフェスティバルは、本国ドイツ大使館からも期待されているイベントであり、日本国内の日独交流事業の中でもひと際注目を浴びているようです。我々にとっても群馬県内における日独交流の要のメイン事業のひとつであり、多くの県民の皆様にドイツ文化の魅力を知っていただく絶好の機会となると期待しております。

その実現のためには、企画・運営に携わる多くの人材、そして事業を支える財政基盤の充実が欠かせません。人手や資金の確保という課題はありますが、今から準備を進め、一つひとつ着実に積み重ねていくことが成功への道であると考えております。

会員の皆様には、今後さまざまな場面でご協力をお願いすることになるかと存じます。どうか本事業の趣旨をご理解いただき、お力添えを賜りますよう心よりお願い申し上げます。皆様のお知恵とお力を結集し、ぐんま日独協会ならではの素晴らしいドイツフェスティバルをともに創り上げてまいりましょう。

結びに、皆様のご健勝とご多幸、そしてぐんま日独協会のさらなる発展を心よりお祈り申し上げ、発刊のご挨拶といたします。



フェスティバルの入り口を
各テーマで飾った作品
←左は第十回（2025年）
右は第七回（2017年）→



2.（1）定期総会の開催について

事務局長　中島資浩

2026年4月29日、前橋中央公民館502学習室におきまして、恒例の定期総会を開催し、全ての議案が可決・承認されました。

特に、今回の総会では、会則の7つの条文の改定が行われ、大きな変更点としては、会員数の減少や物価高等を踏まえ、1988年の創設以来37年間変更のなかった会費を値上げすることを、全会一致で可決して頂きました。ご理解を頂きましたことに、心より感謝申し上げます。



また、5年間に亘り事務局長をお務め頂きました平方秋夫氏が相談役に就任し、代わりに中島資浩氏が就任しました。

今年度は、ドイツサロンの県内各地での出張開催や、秋には中澤会長のご配慮で、中沢ビレッジ様での1泊での交流会の開催等、新たな試みもしております。多くの皆様のご参加を、心よりお待ちしております。

2.（2）私達の知らなかった「習志野俘虜収容所」

平方　秋夫

本年度の定期総会の後、特別講演会が開催されました。千葉日独協会の事務局長植松健様のご紹介によって、習志野市の歴史研究家、星正幸様をお招きして行われました。演題は「習志野俘虜収容所 1915−1920 ～その忘れられた歴史～」でした。先生の素晴らしい講演会に改めて感謝申し上げます。

私たちぐんま日独協会では昨年11月のドイツフェスティバルでドイツ大使館制作の『音楽のちから』という13枚のパネルを借用して展示しました。このパネルには徳島県鳴門市に現在も残る「坂東俘虜収容所」の資料が描かれていました。これは今回の習志野俘虜収容所と同時代、第1次世界大戦時のドイツ人捕虜と地元住民の交流の物語です。



第1次世界大戦における日独戦争は1914年にドイツの植民地であったチンタオが陥落、約5，000人のドイツ兵が捕虜として日本各地に送られました。収容所における当時の捕虜たちの待遇は、戦時国際法の順守により、捕虜たちと一般住民の交流は盛んにおこなわれていました。その結果、捕虜オーケストラ、捕虜劇団、ソーセージ秘伝の紹介、ワイン技士によるワインの紹介、等が現在に伝わっています。そして中には日本に残って大学教授になった人、ドイツにおける浮世絵研究の第1人者、ソーセージ店を開いた人、ワイン技士として残った人、ドイツレストランを開いた人などがいました。1919年、ヴェルサイユ条約締結により終戦。ドイツ兵解放。1920年3月習志野俘虜収容所は閉鎖されました。

2.（3）新緑の少林山達磨寺散策会と蕎麦ランチ交流会

成田美和

快晴に恵まれた令和8年5月16日（土）、少林山達磨寺の散策を行いました。 当協会員のほか、ドイツ人ゲストとして栃木県下野市国際交流員のマルセル・バックさんと前橋市在住のゲルト・ティーレさん、下野市国際交流協会員さんや高崎市在住の女性グループなど、総勢21名が参加されました。



少林山達磨寺の廣瀬ご住職は、当協会の副会長も務めておられます。 当日は、廣瀬ご住職自ら境内や資料館の案内をしてくださり、お寺の歴史や資料館展示、タウトのデスマスクや緑のイス等について詳しくお話を伺うことが出来ました。

境内に在る、ブルーノ・タウトが2年3ヶ月過ごした「洗心亭」の中も特別に見学させていただきました。当時の机や座布団などが大切に残されており、家屋の佇まいとともに、そこに暮らしたタウト夫妻の当時の暮らしに思いを寄せるひと時となりました。 また、少林山散策の前に「藤花庵（お蕎麦屋さん）での交流会も開かれ、美味しいお蕎麦を堪能しました。 新緑の木洩れ陽の中を歩き、時折吹く薫風も心地よく、爽やかな季節を感じながら参加者同士の交流を深めることができた充実した散策となりました。

2.（4）ドイツサロン 6月28日

瓜生郷子

6 月のドイツサロンは前橋の中央公民館にて開催いたしました。ドイツ人ゲストは東京日独協会の研修生エメリー・ラーデマッハ Emelie Rademacher さん、出身はグーマースバッハ、ご家族の出身地はゲルリッツという方をお迎えしました。テーマは「東と西の間で」（Zwischen Ost und West）。

このテーマは彼女のおばあさまが年金受給者になった後、統一前の東ドイツ・ゲルリッツからケルンの近くへ移住（当時の東ドイツで年金受給となった人は西側に出やすくなったそうです）、ご両親も東西の移動が自由になった統一後にゲルリッツに移住された、という家族の歴史に基づくものでした。エミリーさんはラインラント地方とラウジッツ地方、東西両方の文化の中で育ち、彼女にとって西ドイツも東ドイツもどちらも大切な「故郷(Heimat) 」とお話され、ゲルリッツの街は戦争で破壊されなかったとても美しい街、近郊は大きな自然が育む土地とのことです。お話の中に東のドイツ側にしかない美味しい飲料として、きゅうりのレモネード、Vita Cola というコーラがあるそうで、これは現在も西側では買えない飲み物だそうです。



ポーランド側から撮ったドイツ側のゲルリッツ
「聖ペーター・パウエル教会」

2.(5)8月の音楽サロン

原 鏡

8 月 1 日(土)14 時 30 分より、群馬県生涯学習センター4 階の音楽スタジオで、山崎法子先生(群馬大学共同教育学部准教授、国立音楽大学非常勤講師)と、ドイツ歌曲研究会「リーダーバウム」の 8 名(群馬大学教育学部・共同教育学部音楽専攻卒業生で、現役の教員)による「フーゴ・ヴォルフのイタリア歌曲集より」(ドイツの著作家パウル・ハイゼがドイツ語に翻訳)と題し、レクチャーコンサートが行われました。山崎先生がスライドを使ってお話ししてくださり、リーダーバウムの皆さんが演奏、素晴らしい歌を披露してくださいました。当日は猛暑の中にも関わらず、会員や一般の方々37名が参加してくださり、充実した歌曲の世界を堪能しました。





今までの音楽サロンは会員の中で演奏をお願いしてきましたが、今回初めて外部よりゲストをお招きしての開催となりました。また、観客も会員だけでなく一般の人にも開かれ、多くの方に来ていただく事ができました。これを機に、ぐんま日独協会に興味関心を持っていただけるよう、願ってやみません。

3.「🍀新入会員紹介🍀」

(1)Ich freue mich,Sie kennen zu lernen. (お会いできて光栄です)

中村 剛一郎

昨年 12 月、駐在していたミュンヘンから帰任いたしました。4 年という短い期間ではありましたが、ドイツが私たちにとって第三の故郷となるには十分な時間でした。ドイツでの生活は日常を丁寧に過ごす素晴しさを気付かせてくれました。この素晴らしさとは、五感を大切にすること。バイエルンの澄んだ空は鮮やかな視界を届け、深緑の樹木は新緑の匂いを運び、草原にたたずむ農村は絵画のような美しさを描いていました。ドイツの日常には、ゆるやかに進む時間とその時間を味わう楽しさがありました。今この気付きは、多忙な日常において、心を整えるための私たちの大切な指針になっています。



さて表題の言葉に戻ります。直訳すると、「あなたとの出会いは私を喜ばせます」。なんと素敵な表現ではないでしょうか。私は嬉しい、という完結表現でなく、私の感情に影響を与えます、という相互関係を示唆し相手の心と寄り添う表現が私はとても好きになりました。この言葉からも分かるように、ドイツには心を育む環境と心をつなぐ文化、社会があると思うのです。

このドイツ交流協会を通じて心を育む素晴らしい文化に触れていきたいと考えております。よろしくお願いいたします。

3.(2)ドイツ、そしてヨーロッパへの憧れから

養田 康晃



この度、ぐんま日独協会に入会させていただきました養田といいます。ぐんま日独協会のことを知ったのは去年 11 月のドイツフェスティバルで、子供の頃から大好きな、車や時計等の展示が今でも印象深いです。ぐんま日独協会の活動を知ってからは、その翌月以降毎月のようにドイツサロンに参加してきました。普段立ち入ることのできない少林山達磨寺の洗心亭の内部を見学できたことは貴重な体験です。最近では、母をドイツのクリスマスマーケットに連れて行きたいと思いが強いだけに、ドイツサロンでは、ドイツ人との交流を通してドイツについて様々な情報を得られるだけに、毎回楽しみにしています。自身も 30 を過ぎて以来、時が経つのが早く感じるようになりました。親も高齢になり、先述のようにドイツに連れて行きたいという想いは日に日に増しているだけに、少しでも早く実現させたいです。最近では色々なコミュニティに行っていますが、中でもドイツサロンは将来のドイツ旅行のためにも貴重な情報を得られる場所だと思うので、今後も足を運んでいきたいです。先述の洗心亭の見学以外にも、ここでしかできない貴重な経験もできるような気がするだけに、これからが楽しみです。

3.(3)わたしがドイツを好きになった理由

楊 彩子



わたしがドイツという国を初めて知ったのは小 1 のときに父が買ってくれた図鑑セットの 1 冊がきっかけでした。図鑑のタイトルは"ドイツ"でした。父はレコードでよく外国の童謡を聴かせてくれたのですが、その中にお気に入りのドイツの童謡曲がありました。初めて行ったコンサートは父に連れて行ってもらった(お国は違いますが)ウィーン・モーツァルト少年合唱団のコンサートで初めてドイツ語を耳にして"なんて美しい言葉なのでしょう！" と感動いたしました(歌声が美しかったことも、もちろんあります)。また父に連れられて初めて観に行った洋画が"ネバーエンディングストーリー"だったというのもあり、初めて好きになった作家は今は亡きドイツのミヒャエル・エンデでした。10 代の時に文通していたドイツの子が手紙と一緒に送ってくれたベルリンの壁のかけらは今でも大切に持っています。最近になって気づいたのですが、文房具や入浴剤など愛用しているものは気づいたらドイツ製が多く、ドイツに行ってみたいと今さらながら思うようになりました。ドイツが大好きな皆さまと交流して様々な知識を深めたいと思い入会いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。

4.日本百名山 独訳 － 連載17

深田勝弥 会員

80 北岳（3192 米） *Kitadake* (3192 Meter)

80-01



日本で一番高い山は富士山であることは誰でも知っているが、第二の高峰はと訊くと、知らない人が多い。北岳だよと教えても、そんな山はどこにあるかといった顔つきである。甲斐の白峰（しらね）だと言うと、その名前だけは承知している。平家物語に、

・・・宇津の山辺の蔦の道、心細くも打ち越えて、手越（てごし）を過ぎて行けば、北に遠ざかりて、雪白き山あり、問えば甲斐の白峰という。その時、三位中将、落つる涙をさええつつ、

惜しかぬ命なれども今日までにつれなき甲斐の白峰を見つ

という有名な一節があるからである。私はかつて冬のよく晴れた一日、その駿河の「手越を過ぎた」あたりまで、山を見に行ったことがある。富士山の西側を通して遥か遠く白銀に光る山を眺めた。しかしそれは北岳ではなかった。もっと手前の赤石岳や悪沢岳であった。

Jeder weiß, dass der höchste Berg in Japan *Fujisan* ist, aber viele Menschen kennen nicht es, der Name und wo der zweite höchste ist. Das ist „*Kitadake*“, der weiße Spitz im Land *Kai*. Es steht im alten Roman „*Heike Monotagari*“ (Die Geschichte über die Familie *Heike*):
… „An dem Gebirgsweg in „*Udu*“ *mit üppigen* Efeu einsam vorübergegangen und „*Tegoshi*“ verlassen, dort sieht man den schneeweißen Berg fern nach Norden. „Was genannt dieser Berg“ gefragt, antwortet jemand „der weiße Spitz im Land *Kai*“, dabei schrieb ein Waka *Taira Shigehira*, der dritte Rang Vizeadmiral, unter Tränen.

Es ist nicht schade
um mein Leben bis heute,
blick' ich doch traurig
den weißen Spitz im Land *Kai,*
ohne mit dir Verbindung.

Weil hier ist solchen bekannten „*Tanka*“. Ich bin früher am heiteren Tag im Winter zur Gegend *Tegoshi* im Land *Suruga* gefahren, um den silberweißen Berg am Westen des Fujisan zu blicken. Leider war das kein *Kitadake*, sondern noch näher, *Asahi-dake* und *Akuzawa-dake*.

80-02

しかし駿河を過ぎて武蔵国へ入ると、汽車の窓から甲斐の白峰、つまり白峰三山と呼ばれる北岳、間(あい)ノ岳、農鳥(のうとり)岳がハッキリ見える所がある。戦前私は鎌倉に住んでいたが、東京へ出てくる途中、六郷川鉄橋を渡るあたりで、もしキリッと空気の澄んだ日であると、眼を北の空へやることを忘れなかった。そして彼方の青空に、純白の山が三つ並んでいるのを見逃さなかった。そのたびに私の好きな「北に遠ざかりて、雪白き山あり」を口ずさむのが常であった。

Aber übers Land *Suruga*, ins *Musashi* eingetreten, ist hier der Ort, wo der *Kitadake*, *Ainodake* und *Nohtoridake* namens „*Shiramine-sanzan*“ (drei weiße Berge) von Fenster des Zugs deutlich zu sehen ist. Als ich vor dem Weltkrieg in der Stadt *Kamakura* wohnte, war ich oft mit dem Zug nach Tokyo gefahren. Wenn der Zug in der Nähe der Brücke überm Fluss *Rokugoh* gekommen, dabei der nördliche Himmel klar ist, versah ich nicht die drei zusammenstellende Berge. Jedes Mal pflegte ich mein liebes Zitat „Der schneeweiße Berg fern im Norden“ zu summen.

80-03

汽車からもっともよく見えるのは、中央線の笹子トンネルを抜け、勝沼から甲府盆地へ駈け下るしばらくの間である。盆地を距てた真向こうの空を仕切って、白峰三山が威厳と優美を兼ねて連なっているのを望んでは、山の好きな人で胸の高鳴らぬ者はあるまい。

In der Stunde, wenn man am besten es zu sehen ist, einer Weile, die der Zug aus dem Tunnel *Sasago* durchgefahren, und zwischen *Katsu-numa* und Becken *Kofu* gefahren ist. Diese drei Berge, die den Himmel über dem Becken fern abgeschnitten hatte, reihen sie würdig und elegant. Wenn die Liebhaber das gesehen hätten, müssten alle mit klopfendem Herz sehen.

80-04

三山のうちの最高峰が、一番北に位置する北岳であって、昔から甲斐ケ根という名前は、この峰にあてられていた。『甲斐国志』に「この山、本州第一の高山にして、西方の鎮たり、国風に詠ずるところの甲斐ケ峰これにして」とあり、その頂上に日の神を祀ったという記載があるから、少なくとも二百年前から北岳の存在は歴として認められていたのである。

Der höchste Berg in drei Bergen ist am nördlichste *Kitadake*. Seit langem hat der Name *Kaiga-ne* auf diesem Berg gezeigt ist. Im Buch „Die Geschichte des Land Kai“ steht es, dass: „Der Berg am höchste in unserem Land und die Zentrale im Westen. Das ist *Kaiga-mine* (der Spitz Kai). Seine Existenz gilt deutlich mindesten seit zwei hundert Jahren als der Gott der Sonne, weil es das Dokument oben gibt.

80-05

そんなに古くから名の聞こえた山であり、わが国第二の高峰でありながら、あまり人に知られていないのは、一つにはこの山が謙虚だからである。どうだおれは、といったような、抜きん出て人の眼を引こうとするところがない。奇矯な形態で、その存在を誇ろうとするところもない。それでいて高い気品をそなえている。いつも前山のうしろに、つつましく、しかし凛とした気概をもって立っている。奥ゆかしい山である。

Obwohl er so lang verehrt wird, und der zweiten höchsten Berg ist, ist er heute nicht so bekannt und demütig. Er hat Wille, weder noch auf seine Höhe vielen Augen anzuziehen, und auf eigene seltsame Gestalt stolz zu sein, aber er hat große Würde. Er ragt bescheidend immer hinter anderen Berge doch drahtig und standhaft. Er ist ein bescheiden und das Vertrauen habende Berg.

80-06

この北岳の高潔な気品は、本当に山を見ることの好きな人だけが知っていよう。白峰三山の中でも、北岳は形がスッキリしていて、清秀な高士のおもかげがある。南の間ノ岳や農鳥岳から見ても立派であるが、少し近すぎる。むしろ北の駒ケ岳やアサヨ峰まで退いて望んだ時の北岳の姿は、まさに絶品である。屹と天を突くような鋭い頭角をあげ、颯爽として軽薄でなく、ピラミッドでありながら俗っぽくない。惚れ惚れするくらい高等な美しさである。富士山の大通俗に対して、こちらは哲人的である。

Wer allein die Berge richtig gern sehen, mag die reine und edle Würde des *Kitadakes* wissen können. In den drei Bergen hat *Kitadake* einfache und reine Gestalt. Aus *Aino-dake* und *Nohtori-dake* geblickt, ist er natürlich schön, doch ist es zu näher, vielmehr fern bis zum *Komagadake* oder *Asayo-mine* zurückgetreten, geblickt, ist besser, weil seine Gestalt wie Kabinettstück. Wie den scharfen Kopf in den Himmel stoßend, ragt er schneidig, aber nicht leichtfertig, nicht vulgär wie Pyramide. Er hat die entzückend hohe Schönheit. Im Gegensatz zur Popularität des Berges *Fujisan* (72), ist er Philosoph.

80-07

しかもその肩から上の秀抜さを支えている、下半身の腰回りの大きいことはどうだろう。これほどドッシリした土台を踏まえた峰は稀である。野呂川が大きくこの山を巻いているが、それに流れ込む多くの沢、その沢のどの一筋を遡るのも容易でないことを思えば、そのみごとな大きい根の張りかたが察しられよう。

Wie groß ist der Unterkörper, die schöne Spitze auf der Schulter stützet. Es ist selten solcher Gipfel auf der so massiven Basis. Der Fluss *Noro* fließt um den Berg und hat viele Gebirgsbäche. Wenn es in Betracht ziehen, dass jemand auf dem Fluss zum Oberlauf steigen, kann man seine große Wurzel vermuten.

80-08

私が頂上に立ったのは、十月半ば過ぎの綺麗に晴れた午後おそくだった。その朝私たちは池山小屋を出発して、吊尾根と呼ばれる山稜を辿った。急坂を登りきって、偃松の敷いている緩やかな広い尾根へ出た時、ひょっこり北岳が私たちの前に現れた。ずっとそれまで隠れていた峰があまりにも不意に、あまりにも高く、あまりにも近く、私たちを驚かすように姿を見せた。クライマーの道場になっている北面バットレスが、手にとるように見えた。それは頂上からすぐ絶壁に近い傾斜で、テラスやガリーやリッジを刻んでいた。

Als ich auf dem Gipfel mich gestellt habe, war es am schönen Nachmittag in späten Oktober. Am nächsten Morgen waren wir aus der Hütte *Ikeyama* aufgebrochen, und den Grat namens *Tsurione* entlang gegangen. Auf dem Steilhang aufgestiegen war, an dem weiten mit dem Kriechkiefer weit bedeckten Bergrücken angekommen, hat hier *Kitadake,* der bis dahin den

Gipfel sich verborgen hat, plötzlich vor uns erschienen war, zu höher, zu näher, wie uns überraschen. Die Felsenwand des Trainingsplatzes für Steiger ist in greifbarer Nähe zu sehen.

80-09

頂上は静かだった。ソヨとの風もなかった。北岳の大きな三角の影が、大樺沢を距てた向こう側の山に次第に這い上がってきた。澄んだ空に、富士山はもちろん、南アルプスの山々が、私たちを取り巻くように勢揃いしていた。頂上の至福であった。

Es war ruhig auf dem Gipfel, gar kein Wind. Der große Schatten von Dreieck des *Kitadake* kriecht langsam nach oben den Bergen überm Fluss *Okabasawa*. Am klaren Himmel sind alle Berge in den südlichen Alpen auch der *Fujisan* zu sehen, wie uns umgeben zu sehen. Das ist die Glückseligkeit auf dem Gipfel.

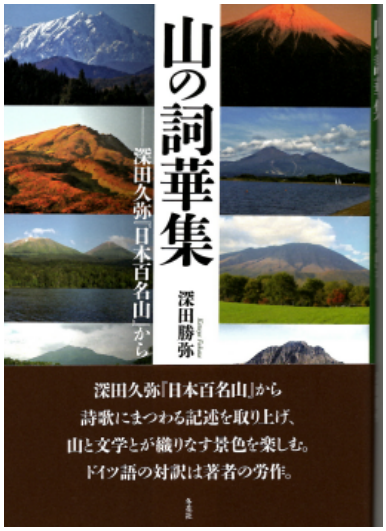
80-10

近年芦安（あしやす）から夜叉神峠（やしゃじん）をトンネルで抜けて野呂川の広河原まで車道が完成し、奥深い山であった北岳も簡単に登られるようになった。喜ぶべきか、悲しむべきか、私は後者である。

In den letzten Jahren wurde der Fahrweg durch den Tunnel zwischen *Ashiyasu* und dem Pass *Yashajin* bis *Hiro-kawahara* bei Fluss *Noro* gebaut. Danach kann man schneller, einfacher, und tiefer auf den Berg besteigen. Ist es zu freuen oder trauen? Ich wähle dieses.

März 2026

事務局註：深田勝弥会員は、作家故深田久弥氏の甥という関係から名著「日本百名山」の独訳に挑戦されました。北海道から南下しながら掲載しますが、百座を網羅する時間とスペースがないため一定地域に偏らないように選択しながら進めております。一旦は 62 号で完となりましたがもう少し続けていただけることになりました。



なお、深田会員が5年かけてドイツ語版を完成させた経緯が、故深田久弥氏の地元の北国新聞（2020年10月25日付）、上毛新聞（2020年11月18日付）、朝日新聞（2020年1月17日）に紹介されました。

初版刊行後、電子書籍での発行を薦められ、2023 年には「日本百名山」の詩 と表題がつけられて電子書籍でも発行されております。

ぐんま日独協会事務局に深田会員から頂きました「山の詞華集」がございます。貸し出しもできます。

貸し出しご希望の方は事務局へご連絡ください。

5.お知らせあれこれ

Informationen

1、2025 年度大使館絵画コンテスト応募作品展

6 月 19 日(金)より 6 月 28 日(日)まで前橋市中央公民館ホワイエにおいて 2025 年度大使館絵画コンテスト「わたしのドイツ」応募作品展を開催しました。

小学校の部第 1 位や中学校の部第 3 位の作品をはじめ県内の小中学生の作品 155 点の展示を行い、たくさんの児童・生徒のみなさんや保護者の方々、一般の方々に鑑賞いただきました。

鑑賞いただいた多くのみなさまより、児童・生徒の発想豊かな楽しい作品からドイツを知ることができましたなどの感想をいただきました。

展覧会の様子は上毛新聞や読売新聞でも取り上げていただきました。また、ドイツ大使館のブログサイト Young Germany でも紹介いただきました。(https://www.young-germany.jp/)

2、共愛学園小学校で国際理解教育

7 月 14 日(火)に大使館職員ホーボルト様が、共愛学園小の 4 年生にドイツについての授業をしてくださいました。ドイツの小学生の様子についてのお話をとリクエストをいただき、ドイツの小学生の学校生活を中心にお話を伺いました。

上履きがないこと・お掃除の時間がないこと・夏休みに宿題がないこと(日常は宿題が多く、教わってない内容も宿題に出ること)・給食がないこと・4 年生で自分の進路がほぼ決まること等々をお話しくださり、最後はクイズ形式で大いに盛り上がりながらドイツを知ることができました。

3、2026年大使館絵画コンテスト「わたしのドイツ」作品募集

今年も大使館絵画コンテスト「わたしのドイツ」の作品募集の季節になりました。

毎年楽しみに作品テーマが何になるか待っていてくださる児童・生徒の方もいるとか。うれしく思います。今年もどんな作品に会えるか楽しみです。



今年のテーマ:　「似ているドイツ」
締め切り:　2026年 9 月11日(金)大使館に直接の場合
ぐんま日独の取りまとめは 9 月 4 日(金)
資格:　日本に住んでいる小学生・中学生のみなさん

※応募作品の一部を大使館内に展示し、作品を応募してくれた子どもたちやそのご家族、コンテストの協力者を招待した公開展覧会「オープン・デー」も予定されています。

担当:岡

6.編集後記

猛暑が一段上がり、酷暑という表現が加わった 2026 年の夏、雨も1時間あたりの強さに対して危険度を示す 5 段階の警戒レベルで分類されるようになった。

その警戒レベル 5 が頻発するこの夏であり、大雨などという表現ではなく、豪雨災害という域にすでに何度も達している。

ヨーロッパでも熱波が到来し、クーラーがある生活が当たり前ではない地域では、対応が大変そうである。交通の要路でもあるドナウ川やライン川でも渇水となっており、船底が川底についてしまう懸念から航行不能となっている。ミュンヘンでは庭や畑への水まき禁止、スイスのバーゼル州では森に近い家は庭でのバーベキューが禁止だそうだ。

温暖化現象！ もっと真剣に向き合っていかなくてはならないだろう。

問い合わせ先・参照先

ホームページ (HomePage) https://www.jdg-gunma.jp
フェイスブック (FaceBook) https://www.facebook.com/JDGGunma
E-Mail info@jdg-gunma.jp
Tel 090-3217-4317 (中島 方)

QR コード

ホームページ

フェイスブック

☆雑学トピック☆ ドイツ各州の旗（北の州から順に紹介しています）



Saarland
ザールランド州
Saarbrücken ザールブリュッケン



Rheinland-Pfalz
ラインラント=プファルツ州
Meinz マインツ



Baden-Württemberg
バーデン=ヴュルテンブルグ州
Stuttgart シュトゥットガルト